

内川摩薩報



January. 2020
Vol. 366



西郷つん



子
年

本年もどうぞよろしくお願いたしまつん。

謹賀新年



磨こう！地域の宝
創ろう！みんなのふるさと

躍動 薩摩川内

薩摩川内市長 岩切秀雄

令和2年の新春を迎え、謹んで新年のお祝詞を申し上げます。

昨年、台風・豪雨などによる自然災害が全国各地で発生しました。川内川を有する私たちにとって、平成18年の大水害を改めて想起させるものでありました。多くの尊い命が奪われ、住民の大切な財産などが一瞬にして失われました。ここに改めて哀悼の意を表しますとともに、一日も早い被災地の復興を心よりご祈念申し上げます。

さて、昨年の主な出来事につきましては、次ページ以降にも掲載しておりますが、まず防災関係については1月に、平成18年の鹿児島県北部豪雨災害を受け、本市上流部の鶴田ダムの治水機能を強化するため、12年の歳月をかけ施工されてきた「鶴田ダム再開発事業」が完成しました。この事業により、ダムの洪水調節容量が拡充され、川内川流域の安全性は格段に向上しました。

また10月には船間島・久見崎地区で「川内川高潮対策事業」が、11月には「天辰第二地区まちづくり一体型引堤事業」が着工しました。今後も、市民の安全・安心の確保のため災害対策などに万全を期してまいります。

文化関係については、3月に「川内大綱引」が国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財「薩摩川内の大綱引き」として選択されました。また、5月には、入来麓・里麓・手打麓の3カ所を含む「薩摩の武士が生きた町」武家屋敷群「麗」を歩く「が日本遺産として認定され、11月には「甌島のトシドン保存会」が「硫黄島のメンドン」悪石島のボゼ」の両保存会とともに、第70回南日本文化賞の特別賞を受賞しました。いずれも地域の方々が永く守ってきた貴重な伝統行事や文化財であります。関係者の意向も踏まえながら、未永く保存・継承ができるよう支援してまいります。

スポーツ関係については、7月に、全国高等学校総合体育大会「南部九州総体」が開幕し、本市ではバスケットボール競技が実施され、秋篠宮皇嗣同妃両殿下が試合を観戦されました。また、国体に向けたリハーサル大会として、9月にホッケー、11月にはウエイトリフティングの社会人大会が開催されました。

社会資本整備については、11月に川内港の港湾計画が30年ぶりに改訂され、唐浜埠頭に水深12メートルの水深岸壁などの計画が位置付けられました。川内港の整備は市勢発展にとって欠かせないものであると考えており、早期着工に向け国への働きかけを強化してまいります。

また、蘭牟田瀬戸架橋の建設についてもいよいよ最終段階であります。10月に決定した「甌島地域一体化方針」に基づき、甌島の振興発展と島民の一体感醸成に取り組んでまいります。

さて、今年はいよいよ10月に「燃ゆる感動がごしま国体」が開催されます。また、9月には「全国市町村交流レガッタ」も川内川で開催され、多くの選手や大会関係者、観客の来訪が期待さ

れます。本番に向け、官民一体となりさらなる機運の醸成と、おもてなし体制の充実を図ります。その他、女性活躍の推進、働き方改革、農林漁業の六次産業化、次世代エネルギー、健康・福祉、教育などの施策についても引き続き総合的に推進してまいります。

なお、川内駅東口のコンベンション施設の整備・運営事業につきましては、令和3年1月の供用開始に向け諸手続きを進めます。

人口減少、少子・高齢化、人手不足など厳しい状況もありますが、長期的展望をもって少子化対策に取り組むとともに、交流人口の拡大などにより、人口減少による経済活動の縮小を補っていく必要があります。

地域の市民、事業者の皆さまの叡智を結集し、若い世代や次世代の子どもたちに、活気ある「みんなのふるさと」躍動 薩摩川内」を引き継いでいくべく、全力を傾注してまいります。

最後に、市政全般にわたりまして、今年も皆さまの格別のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。併せて、皆さまにとりまして幸多き一年となりますようご祈念申し上げ、新年の挨拶いたします。



令和元年

Satsumasendai Topics 2019

主な出来事

このコーナーでは、昨年1月から12月までにあった主な出来事を、抜粋して掲載します。



Topic 02

重要港湾川内港30年ぶりの港湾計画改訂

11月29日、重要港湾川内港港湾計画改訂が策定されました。港湾計画改訂は、港湾管理者である県が平成元年度に行って以来30年ぶりの改訂となります。

本市においては、川内港長期構想の物流産業面の基本方針「国際物流拠点として産業を振興する港づくり」を達成するため、川内港地域活性化協議会などを設立し、港の整備促進を図るための取り組みを推進しています。



Topic 01

東郷小・中学校が惜しまれながら閉校
東郷学園義務教育学校が開校

3月、東郷小学校および東郷中学校で閉校式があり在校生、卒業生、地域住民、保護者、教職員が母校との別れを惜しみました。

また、4月には、小・中学校の9年間の義務教育を一貫して行う本市初の義務教育学校として、閉校した各学校の伝統を引き継ぎ、東郷学園義務教育学校が開校。教職員の乗り入れ授業や教科担任制などの取り組みにより、さらなる学力の向上が期待されます。教室の床や壁材には市産材のスギが使用されており、木の香りや温もりに包まれた学習環境となっています。



Topic 03

子育てに優しいまちづくり
新たな事業開始

乳幼児を抱える保護者の子育てを支援する取り組みの一環として、外出中に授乳やおむつ替えのために立ち寄ることができる施設を「赤ちゃんの駅」として登録開始しました。現在市内41カ所(R1.12.6 現在)の登録があり、登録施設には専用ステッカーが表示されています。また、市内開催のイベント用に「移動式赤ちゃんの駅」の貸し出しも行っています。さらに、第3子以降の子どもを妊娠された方に支給される「第3子以降妊娠祝金」も事業開始しました。

Topic 04

若い力が集結した全国高校総体
2020年は国体・オリンピックキヤー



南部九州を舞台に、令和初の全国高校総合体育大会が開催されました。

サンアリーナでバスケットボール競技が行われ、本市からは県代表として川内高校男子チーム、れいめい高校女子チームが出場。地元での大会とあって会場内は大いに盛り上がりました。同大会では秋篠宮皇嗣同妃両殿下が競技をご覧になられ、高校生たちの躍動が、今年のごしま国体と東京オリンピックへ向け弾みを付ける大会となりました。



子どもの職業・社会体験型テーマパークである「キッサニア」の出張版「アウト オブ キッサニア」が本市で開催されました。

県初の開催で、(株)薩摩川内市観光物産協会、KDDI(株)、市が、平成31年1月に締結した包括連携協定の具体的な取り組みの一環です。市消防局の体験プログラムもあり、子どもたちは消防士が行っている生命や財産を災害から守るための訓練を体験しました。



Topic 12

アウトオブキッサニアを県内初開催



8月26日、名誉市民称号記贈呈式が行われ、元川内商工会議所会頭の田中憲夫氏に称号記と名誉市民章が贈られました。田中氏は、川内青年会議所の初代理事長を務められた後、平成5年7月に川内商工会議所会頭に就任され、かごしま川内貿易振興協会会長および川内大綱引保存会会長など多くの要職を歴任。市勢発展に大きく貢献されました。

Topic 11

薩摩川内市名誉市民に田中憲夫氏

県の無形民俗文化財に指定されている「川内大綱引」を題材とした映画「大綱引の恋」の撮影が、9月～10月にかけて市内各地で行われました。



主演の三浦貴大さん、ヒロインの知英さんをはじめ、豪華な俳優陣が顔をそろえ、市民からもオーディションで選ばれた子役・一般出演者らが撮影に挑みました。

川内大綱引は、国から「薩摩川内の大綱引き」として、「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択され、有識者などによる調査を行っています。今後は、川内大綱引の記録を後世に残すため調査報告書を作成し、保護を図っていきます。

Topic 14

川内大綱引が新たな国の文化財へ映画「大綱引の恋」撮影クランクイン



10月に行われた天皇陛下の皇位継承祭祀「大嘗祭」の供え物として本市産の早掘りタケノコが選出されました。大嘗祭の供え物は「庭積机代物」と呼ばれるもので、全国の農林水産物が集まりました。

県全体では、お茶や安納芋など7品目が選定されており、地元の生産者にとって大きな励みになりました。

Topic 13

天皇陛下の皇位継承祭祀「大嘗祭」供え物として本市産早掘りタケノコを発送



6月、川内南中学校の3年生3人が、熱中症で倒れている男性を発見し、応急手当を実施。その後、救急隊へ引き継ぎ、男性は無事回復しました。生徒らは昨年、中学生を対象とした普通救命講習を受講しており、学んだ技術を実際の現場に生かしました。また、7月には祁答院中学校の生徒が、消防局祁答院分署の放水壁に壁画を作成しました。壁画は、郷土愛にあふれたデザインとなっており、地域住民の防火意識の高揚にもつながっています。

Topic 16

川内南中3人熱中症高齢者を応急手当祁答院中生が祁答院分署に壁画制作



市内の中学校と義務教育学校の生徒会役員で構成されている中学校生徒会連絡会が、川内青年会議所と市教育委員会の共催のもと、16年ぶりに「子ども議会」を開催。実際の議場を使って「働きたいと思える環境づくり」や「交通の便がよいまちづくり」など、6つの委員会に分かれテーマごとに提言を行いました。緊張感のある議場で生徒らは堂々と発言し、本番に至るまでの川内青年会議所や大学生ボランティアとの提言の練り上げも、大変貴重な経験となりました。

Topic 15

子ども議会16年ぶりに開催



来年度の完成を予定している 蘭牟田瀬戸架橋(全長1,533m)は、中甌島と下甌島を結ぶ橋で、完成すれば県内で最長となります。

本市では架橋の完成を見据え、甌島の支所・診療所・学校・消防・その他施設の在り方を最優先に、防災体制や交通体系の在り方などを含めた将来の姿を検討した「甌島地域一体化方針」を策定しました。

Topic 06

もうすぐ開通！蘭牟田瀬戸架橋 開通を見据え、甌島地域一体化方針を策定



白和町のマンション建設現場で、米国製の500kg爆弾が発見され、6月30日、現場から半径約300mを基準に警戒区域を設定し、陸上自衛隊不発弾処理隊が約1時間かけて処理を実施。発見場所付近には、一般住宅や商店、病院の他、国道や鉄道が通ることから、影響は多岐にわたりましたが、住民や関係機関の協力のもと、無事に作業を終了しました。

Topic 05

不発弾処理が無事終了



9月13日、川内市医師会、薩摩郡医師会、エーザイ株式会社、市の4者による「認知症とともに生きる地域づくり」連携協定調印式が行われました。

4者が相互に緊密な連携を図り、認知症に関する取り組みを実施することで、認知症の方などが安心して暮らせるまちづくりをさらに進めていきます。

Topic 08

認知症の方々が安心して暮らせるまちづくり



県内に残る「麓」をテーマとする「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く～」が日本遺産に認定されました。本市からは、入来麓、里麓、手打麓の3カ所が構成文化財の対象地域となっており、今後は他の地域の「麓」との連携などにより、歴史的遺産による観光振興や地域の活性化などが期待されています。

Topic 07

「薩摩の武士が生きた町」武家屋敷群「麓」を歩く日本遺産認定



近年の夏期の猛暑対策として、市内全ての小・中学校の普通教室に空調設備を設置するための整備工事が5月から段階的に行われました。12月1日現在、小学校10カ所と中学校2カ所が完成しています。令和2年3月までに全ての小・中学校への設置が完了する予定です。

Topic 10

小・中学校の普通教室に空調設備整備開始



10月19日、「川内川高潮対策事業」の着工式が行われました。この事業は、川内川河口の船間島地区と久見崎地区における高潮による浸水被害を防止するためのもので、堤防のかさ上げなどにより、台風通過時に発生する両地区への海水の越波の軽減が期待されます。

Topic 09

川内川高潮対策事業着工